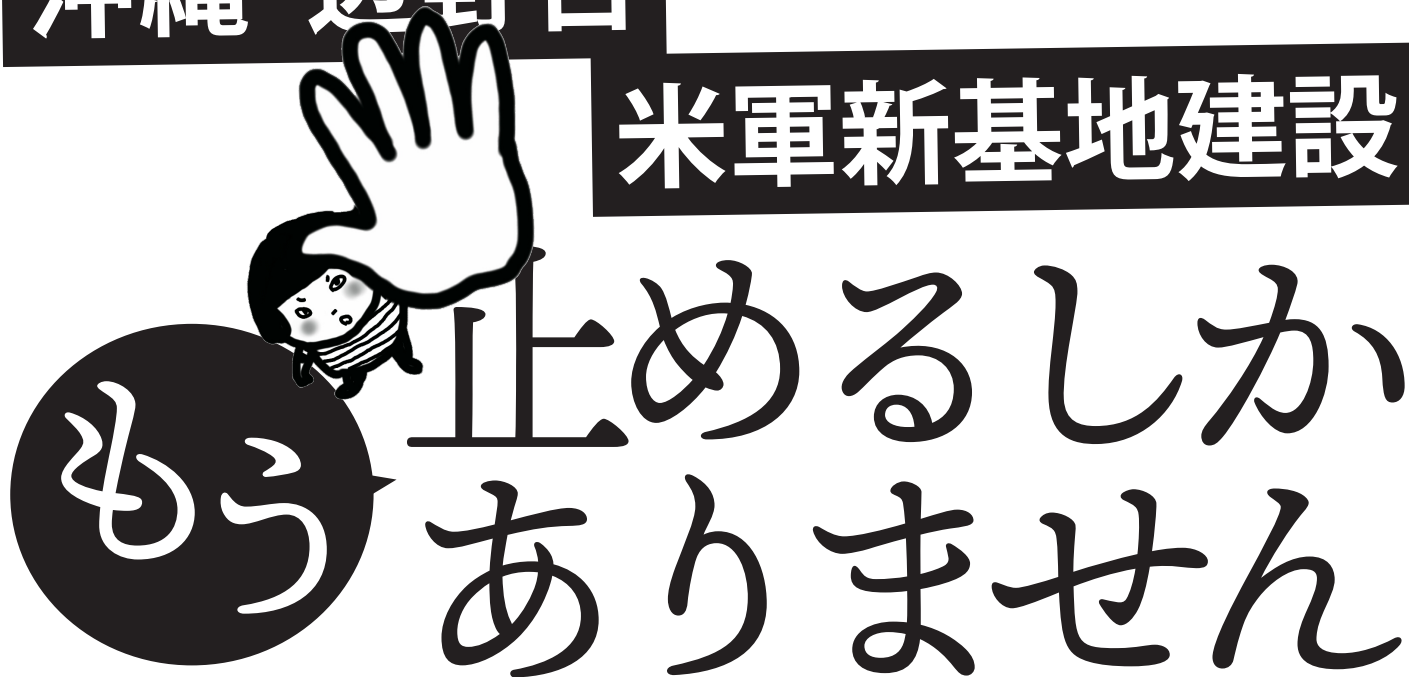


沖縄・辺野古

米軍新基地建設



軟弱地盤を隠ぺい!?

沖縄県民の意思を踏みにじて安倍政権が強行する沖縄・辺野古への米軍新基地建設計画は、道理も完成の見通しも全くありません。

辺野古の海への土砂投入の進捗はわずか1%。県が以前から指摘していた通り、建設予定地に軟弱地盤が広がり、国も建設に12年以上、9300億円以上かかると認めました。市街地のど真ん中で住民の命を脅かす普天間基地の「一日も早い危険性除去のため」との説明は、真っ赤なウソです。

しかも、地盤改良工事ができる水深70mより深い層に軟弱地盤があるとのデータを隠していました。専門家は「(基地を)造っても崩壊する」と警告しています。

空から鉄の落下物

米軍普天間基地所属のCH53ヘリが2月25日、吊り下げ輸送中の重さトラックほどの鉄製物を、読谷村の沖合1.3キロの海上に落下させました。落下地では漁船が日常的に操業し、定置網やいけすがあります。ところが米軍は、事故原因を明らかにしないまま27日にも同型ヘリで重機の吊り下げ訓練をしました。1月下旬には米軍ヘリが海上で墜落。伊江島では米軍がパラシュートで投下した箱が民有地に落下。2月中旬には嘉手納基地の戦闘機が部品を落下させました。

命を脅かす米軍基地は、一刻も早く閉鎖・撤去すべきです。民間地上空での米軍の横暴勝手な訓練を許す日米地位協定は、抜本改定すべきです。

普天間基地は撤去を

新基地建設中止を求める署名、 日米地位協定改定を求める署名 にご協力ください

日本平和委員会

2020年3月発行

一人ひとりの平和の願いをもとに行動する平和NGOです

<http://j-peace.org/>

東京都港区芝1-4-9平和会館4階

TEL03-3451-6377 FAX03-3451-6277